

# 保小連携だより

本校 研究テーマ「人とかかわる力を育み、自ら学びに向かう子どもの育成 ～学びをつなげる保小中連携～」

## 【人とかかわる力】に関する保育所の取り組み

①1期(4~5月)	②2期(6~8月)	③3期(9~12月)	④4期(1~3月)
<p>スタンダードから</p> <p><b>自己発揮</b> 自分の思いや考えを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思ったことや感じたこと、考えたことを相手に分かるように話す。</li> <li>先生や友だちの話を最後まで聞く。</li> </ul>   	<p>保育所の年間指導計画から</p> <p>年長児の実態(4~7月)</p> <p>①人の話をよく聞き、自分の思ったことや感じたことを話す。</p>  <p>②友だちと共通の話題について話し合うことを楽しむ。</p> <p>③生活の中で使う言葉の意味が分かり、注意して聞いたり、会話を楽しんだりする。</p> <p>③感じたこと、想像したことを言葉や体の動き、音楽造形などで表現したり、演じたりなど様々な表現を楽しむ。</p> <p>④自分や友だちの表現したいものをお互いに聞かせ合ったり、見せ合ったりして意欲的に表現遊びを楽しむ。</p>  	<p>年長児の実態(4~7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が自己中心的な思いであっても互いの思いを出し合える関係が育っている。</li> <li>自分の思いは言いたがるが、友だちや先生の話を聞くことが難しい。話を聞く集中力や忍耐力が弱い。</li> <li>絵本の読み聞かせでは、途中で自分の思ったことを口に出してしまい、中断することが多い。</li> <li>先生や友だちの話を聞く場面では、自分の場所に座らなかつたり、近くの友だちとふざけたりしてしまったりする子どもが数多い。</li> <li>友だちと共通のイメージをもち、友だちのよさや考えを受け入れて、言葉のやりとりが豊かになっている。</li> </ul>   	<p>具体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちや先生の話を聞いてから、それに対する思いを言えるように、保育者が仲立ちになる。</li> <li>先生が話す前には、どこを見て話を聞くのかを確認し、顔を見て話を聞く習慣をつけるようにする。</li> <li>複数の指示を出すときには、一つ一つの指示に番号をつけて、あとから番号順に確認するようにする。時々、子どもたちに聞き返してみる。</li> <li>絵本を最後まで聞いてから、自分の感想を言うように約束をして、習慣づける。</li> <li>教室では、三角座りをしてよい姿勢で話を聞くことができるように、名前を書いたテープを貼り、足をそろえて自分の場所にすぐに座れるようにしている。</li> <li>休み明けなどに家であったことを出し合い、質問したり答えたりして、話す力を養う。(設定保育)</li> <li>子どもの気づきや感動に共感し、会話を楽しむ。</li> <li>友だちと考え合う楽しさが感じられるように、共通体験の場をもち、友だちとイメージを共有し、友だちの思いや考えに共感する機会や経験を重ねさせるようにする。</li> <li>イメージを具体化したり子どもの思いをつないだりするために、絵や文字にして表したり話し合ったりする機会をもつようにする。</li> <li>日頃の遊びの中で、絵・粘土遊びなどの造形遊びの時間を多く取るようにしている。</li> <li>言葉で伝えきれない自分の考えやイメージを絵などに描いて伝える方法があることを知らせる。</li> </ul> 
<p><b>共生</b> 友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと積極的にかかわり、友だちの思いや考えを感じながら行動する。</li> <li>共通の目的に向けて、友だちと力を合わせて、粘り強く活動に取り組む。</li> <li>友だちの頑張りを励ましたり認めたりする。</li> </ul>  	<p>①簡単なルールを作っ て、友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。</p>  <p>①友だちと二緒に音楽に親しんだり、様々な素材や用具を使って遊びを楽しんだりする。</p> <p>②保育者や友だちとの安定した関係の中で、意欲的に生活や遊びを楽しむ。</p> <p>③自標に向かう友だちと協力してやり遂げる。</p> <p>④遊びの計画や手順を友だちと話し合い、協力して遊びを進める。</p>	<p>以前は、男子は先生が入らないと集団では遊べなかったが、リーダー的な子どもが中心となり、自分たちでルールを決めて遊ぶ姿が見られるようになってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人が砂場でトンネルを作っていたら、他の子どもが道をつけたり山を作ったりして、集団での遊びへと発展していくようになってきた。</li> <li>友だちへの関心が強く、友だちと二緒に活動したいという思いは強い。反面、自分の思いや考えを伝え合う場面では、どう表現してよいか分からなかつたり、トラブルの時に自分の感情が先走ったりする。(コミュニケーションに課題がある)</li> <li>折り紙などの作品づくりでは、自分で作ることができ自信がもてるようになると、進んで友だちに教える姿が見られるようになった。</li> <li>鼓笛の練習では、先生の指示やスタートの合図を集中してよく聞き、根気強く取り組むことができています。</li> <li>友だちと話し合いながら、考えを受け入れ、新しいアイデアやルールを考え出す楽しさを少しずつ実感している。</li> <li>登所後、自分の持ち物を所定の場所に置く。</li> <li>登所時、他の子どもが室内で遊んでいると、それが気になり持ち物の片付けが進まなかつたり、すべきことを忘れていたりする子どもがいる。</li> </ul>	<p>クラス全体で楽しめる遊びを、保育者が提案し、一緒に遊び中で、子どもたちの様子を見ながら必要なルールを子どもたちと作っていく。【はじめの一歩、ころがしドッジ、わらべ歌、ジャンケンゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だち同士のトラブルが起きた場合には、保育者が仲立ちになり、お互いの思いや一緒に遊んでいた子どもたちの考えなど聞く。</li> <li>また、互いの気持ちが分かり合えるようにクラスみんなで話し合いの場をもつようにする。その中で、自分たちでルールを考える機会を見守り、みんなが納得できるルールであるかどうか見極め、声をかけるようにする。</li> <li>リボン結び、雑巾しぼり、折り紙、あやとりなど毎日の生活に必要なことや季節の遊びなど継続して行い、友だち同士で教え合ったり頑張っていることを励まし合ったりして、友だちの得意な部分を認め合えるようにする。</li> <li>毎日、無理のないように配慮しながら短時間の練習を継続する。楽器の音を通して、友だちと気持ちが合っていることを感じられるようにし、自信をもって新しい曲に取り組めるようにする。</li> <li>鼓笛の練習を通して、一緒に演奏する楽しさを味わったり、達成感を感じられるようにする。</li> <li>友だち同士で自分の思いを出し合う過程を大切に見守るようにする。</li> </ul>  
<p><b>規範</b> 生活や遊びのきまりを考えたり、守ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで一緒に使うものを大切に扱う。</li> <li>良いことと悪いことが分かり、考えながら行動する。</li> <li>自分がやりたいと思っても、友だちが嫌がることは我慢できる。</li> </ul> 	<p>①自分の持ち物を整理したり、身近なものを大切にしたりする。</p>  <p>④人に迷惑をかけないように相手の気持ちを考え、善い悪いを判断して行動する。</p>	<p>登所後、自分の持ち物を所定の場所に置く。</p> <p>登所時、他の子どもが室内で遊んでいると、それが気になり持ち物の片付けが進まなかつたり、すべきことを忘れていたりする子どもがいる。</p> <p>遊びの中でおもちゃの貸し借りができず、取り合いになることがある。その際、手や足が出て大げんかに発展することがある。</p>	<p>天気の良い日は、持ち物の片付けをしたらすぐに外に出て遊ばせるようにすることで、気が散る状況を少なくする。それでも、進みにくい子どもには、保育者がそばについて声をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊びの中で貸し借りや順番などのトラブルが起きた時には、保育者が仲立ちになり、子ども同士で思いを伝えられるようにしていく。</li> <li>子ども同士が互いに折り合いを付ける体験を通して、相手にも自分と同じような思いがあることを子ども自身に気付かせていく。</li> </ul> 